

こども 木龍ふるさと便り

発行：
山古志木龍ふるさと会
会長：松井 治二
発行年月日：
平成25年3月1日



ごあいさつ 心寄り添い、日本に誇れるふるさとづくりを

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。また、旧年中は、多大なるご尽力をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

平成25年、新しい年がスタートいたしました。昨年の12月、早い初雪であり、また大雪が続き、1月の積雪は日毎に増しました。まだまだ遠い春の訪れにささやかな希望を持ちながら、雪と格闘する日々をすごしております。

その様な中でも、年頭の行事「賽の神」には福島県の被災者を始めたくさんの方が参加し、一年の無事、明るい未来を祈り、燃え上がる炎に願いを託しました。皆さんの笑顔に出会え、素晴らし時間を過ごせた事を本当に嬉しく感じております。

今年も、多くの方とふれ合い、寄り添う気持ちを大切にしながら、ふるさと会の発展が図られる事を願っております。これからも日本に誇れるふるさとづくりに、なお一層のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

山古志木龍ふるさと会 会長 松井 治二

年の始めは... 賽の神

「おひさしぶり～」、「おめでとう、今年もまたよろしく～」と新年再会の言葉が飛び交う中、今年もまた、賽の神が始まりました。年の初めのふるさと会行事、長い冬ごもりで久しぶりに皆が木龍に集まる今日は、みんなワクワク、元気と活気に満ちたあったかい1年のスタートをきることができました。

今年は賽の神に「がんばろう東北、がんばろう福島、がんばろう南相馬、がんばろう山古志、冬には必ず春が来る」と垂れ幕をつけ、みんなの気持ちを短冊にして、炎と共に空高く願いを天に届けました。



木龍産、太くて長～い一本ゼンマイの煮物



甘酒でほっこり

賽の神の一日

賽の神つくり

被災地にとどけ・・・



垂れ幕はサランラップで包み濡れないように



軽トラで藁束が運ばれてきました



藁で周囲を覆い・・・

木や竹で骨組みを作ります



きれいに藁で覆われました
てっぺんに竹をさして・・・



最後の仕上げ、頂上に、
神様「おんべ」を飾ります



福島の方々と記念撮影
参加してくれてありがとう

天高く燃え上がれ・・・



点火！！



モクモクと燃え上がっております

福島から渡辺さん、松井会長、
関正史議員。それぞれの思い
でご挨拶をいただきました。



恒例のスルメ焼き～

僕のお尻も燃えちゃう



雪を満喫！！

団樂のひととき



おしゃべりは元気の素



あったかおいしい～

おじいちゃんと一緒に



すべるう～

故郷への思い

松井 安蔵さん(千葉県在住)八十八歳。旧制高等学校卒業後、木箆を離れ関東で働く。その後七十余りたった今も、ふるさと木箆を訪れ、中越震災後も、傷ついた木箆、復興していく木箆の姿を見守ってきた。

そんな安蔵さんから、震災当初の気持ちから今に至るまで、故郷木箆への思いを綴っていただきました。遠くから故郷を想う安蔵さんのお気持ちに、ふるさとの存在の大きさを改めて感じました。

ここにご紹介させていただきます。



『どうして「木箆」だけがこんな目にあうのか』と、日に日に上昇する水に呑みこまれる家、故郷の様子を写すテレビの前で身を揉んだあの日から八年五カ月経ちました。

それにしても堰き止められた「川」が、「木箆」を水没させるとは・・・。

「箱庭のような」とこの地震を報道したマスコミが「山古志」の風景を評したのですが、当然にその風景に欠かせないもの、それは「水」＝「川」だった筈です。

「川」を抱いた集落、それが地元山古志の中でどちらかと云えば「存在感」の低い「木箆」だったのです。

あの地震の報道で「木箆」が何れ程に扱われたのか、記すまでも無い事です。地元の皆さんの「木箆」への強い愛着心とその「木箆」に寄り添って助け、励ましてくださる会員の方々、こんなに大勢の方々が集まって下さる。此処で生まれ育ち、遠くで暮らす老人ですが、改めて、心の底から、深く深く感謝、申し上げます。山古志木箆ふるさと会、会長さん、会員の皆様、本当にありがとうございます。

※ 松井安蔵さんからのお手紙は、原稿用紙十枚ほどに及び、昔の木箆の様子をうかがえる、とても想いのこもったものでした。今後、二〜三回程度に分けてお伝えします。



今後の予定

平成 25 年度ふるさと会総会 5 月 3 日または 6 日の予定 郷見庵前広場にて

※ まだまだ雪が多く、雪解けの見通しがたちません。春の行事は雪どけの頃合いをみながら日程を決める状況です。皆様にはご迷惑をおかけしますが、「道普請」「田植え」「山歩き」など、詳細は ホームページでお知らせいたします。

ふるさと会の仲間から ～被災地が力を合わせ復興を～

私たちふるさと会の仲間である、千葉県香取市の「NPO法人いぶき」さん。ふるさと会の活動に福祉の立場からご賛同いただき、御縁あって仲間になっていただきました。そして、この度の東日本大震災で、千葉県も被災され、地元で懸命に活動されています。こうして私たち被災者同士が共に手を取り合って前に進んでいこうという思いを、理事長の菅谷さんからいただきました。

立春を過ぎ、日一日と碑足が長くなり田圃の水に光が踊り、風はまだまだ冷たくても晴れた日の光はキラキラ輝いて見えます。まさに光の春の到来です。山古志木籠の皆様にはますますご健勝にてご精励のこととお慶び申し上げます。

とは言え、豪雪で名だたる山古志木籠では屋根まで届く雪に覆われて、除雪やら様々な作業に苦心なされていることと思います。それでも皆様は、雪に慣れ雪を熟知しておられますことから冬には冬の諸活動を積極的にこなされておられる姿が目に見えます。

一方、私どもの千葉県にも先だって珍しく雪が降り十センチ少々積まりました。途端に列車は運休となり、車は道路脇に放置。交通機関が麻痺してしまいました。不甲斐ない話です。

中越地震からの復興、「やりたい!」「立ちたい!」「歩きたい!」との皆様の思い。千年の村が様々な歴史を経、伝統と産業を育てられ、例え先の大戦で何もなくなってしまうと、そこから新しい地域を創出してこられました皆様の気概が確実な早期復興に生きております。加えて、これから千年伝統に満ちた新しい山古志を築き続けるという意気込みが感じられます。

そして、この度の東日本大震災に当たっても中越地震の経験から被災地に物心両面にわたる励ましをなされ、被災者に大いなる勇気を分けてくださいました。

私たちNPO法人いぶきの所在する千葉県香取市も大きな被害を受けました。液状化による家屋の倒壊や河岸の崩壊、上下水道、用水の決壊など過去に経験したことのない被害でした。水郷の米所でありながら何千ヘクタールも米が作れなかったり、今だ仮設住宅で過ごす人も多く居ります。

NPO法人いぶきとしても、ボランティア活動や募金活動などを行い、微力ながら復興に寄与しているところです。

今後も、同じ被災地としてお互いに情報交換しつつ、励まし合い助け合いながら地域の発展に力を尽くして参りたいと考えます。

また、山古志木籠ふるさと会並びに貴会員の皆様との絆を強化するとともに、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

結びに、山古志木籠の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。

NPO法人いぶき 理事長 菅谷 委佐雄

ふるさと便りにご投稿ください

ふるさと便りは、皆さんの思いを共有する場になればと考えています。ふるさと会の活動、皆さんの体験やそれぞれのお気持ちを、お寄せ下さい。思い出の写真などにエピソードを添えていただいても結構です。長くても短くてもかまいません。是非下記の事務局までお送りください。

「山古志木籠 ふるさと会」：お問い合わせ、入会ご希望の方は、下記へご連絡ください。

■山古志 木籠ふるさと会 会長 松井治二（FAX／電話）0258-59-2180

■山古志木籠ふるさと会 事務局 担当：石井秀次（Eメール）cid85830@syd.odn.ne.jp

※活動の様子は、ホームページをご覧ください

山古志木籠ふるさと会 <http://yamakoshikogomo.com/>